

■……日銀がデフレ脱却を目指して消費物価指数の上昇率を2%に引き上げる目標を立てています。消費者の立場でいえば、日常、生活のために買い込むモノの値段がたとえ2%とはいえ上昇するのは、ゴメンこうむりたいもの。まあオカネの大量の日銀さんのこと、世の中に出回るオカネの量を増やして長期金利低下を促し、企業経営者の意識や個人の消費行動を変えることを目指しているらしいです。実質国内総生産（GDP）の成長率見通しが1・5%から2・1%に上方修正してまさら国力増進で『良し』としますか。

■……石油やガソリンなどのほとんど全てを輸入に頼る日本。エネルギー価格はいわば他人任せですが、ここに来て原油価格は下る一方。モノを動かす、ヒトが動く。すべて原油などに依存している現代社会。安くなるのは大歓迎ですが、やはり節約の精神を忘れてはなりませんね。お隣の国の空気汚染ではありませんが、町を歩くのに目先き真つ暗なんて想像しただけでもゾッとします。

■……感染といえば、1月末になつてわが国ではインフルエンザが流行、200万人を超す患者さんが。A香港型というらしいですが、昔から風邪に強い人、弱い人のタイプがあつて「手は洗え、うがいを忘れるな」といわれたもので。大気汚染も影響しているかも知れません。微小粒子状物質「PM2.5」、通称スモッグといっているものらしいのが中国や韓国で大流行。ディーゼル自動車から出る物質として中国、韓国では懸念の対応、しかし効果は余り無いようです。韓国ソウル市内を走るすべてのバスが天然ガス車に替えられるとか。ディーゼル車が目の仇（かたき）にされている？

■……昨年2014年に生まれた赤ちゃんは100万1千人とみられて過去最少。いわゆる人口の自然減（死亡数から出生数を引く）はいよいよ本格化したように思えます。一方で高齢化は4人に1人が65歳以上、その数700万人を超すそう。団塊の世代の存在感も薄れる一方。ある年寄りの集まりでボケ症状（今は認知症）が話題になったとき「会話は2週間に1度」「そのせいでウツ病が増えている」「気づかずに『同

じ話』を繰り返す」「知っている漢字が書けない」「人との約束を間違える」「カギをかけたか不安になる」―お互いボケ防止に努める必要がありそう……

■……書店情報を集計している出版社の調査だと、「地元から本屋が消えてしまう」といいます。全国の書店数は2000年当時2万1654店、それが現在（2014年）1万3736店、14年間で37%減とか。最近では年間約300店舗がなくなり「書店ゼロ」の市町村が332箇所。近所の私立大学正門前の新刊をあつかう書店が姿を消してしまいました。テレビやスマホにかまけて、子供や大人を含め読書習慣がなくなりつつある、と指摘されています。将来の人口急減予測では、全国896自治体が「消滅可能性都市」。書店のない自治体の7割強がそれに重なるそうです。大昔の幕末に米日した欧米人らが驚いたのは、日本の大衆、なかでも女性の間で本を読む習慣があること。教育や文化水準を知るために彼らは地方都市の書店に注目した、といわれます。「書店ゼロ」の解消に各市町村の長は頭をひねってみたいかが。

月刊公論 MONTHLY  
KORON

3月号 第48巻3号

平成27年3月1日発行 毎月20日発売  
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人  
発行所

大 中 吉 一 編集人 田崎義信 土井正彦

株式会社財界通信社

〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル

TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616

印刷所  
取次店

株式会社廣済堂

トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。

●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。